

新たな総合計画「長期ビジョン編」骨子案 (2050年頃の目指すべき将来像)

1 時代の潮流（世界～日本～徳島）

- ◆世界人口は95億人を突破し、爆発的に増加。
一方、我が国の人団は1億人を割り込み、超高齢化と地域的偏在も加速。
- ◆南海トラフ巨大地震や首都直下地震の発生が切迫。
地球温暖化に伴う気候変動により、自然災害リスクの増大も懸念。
- ◆地球温暖化の進行に伴い、地球規模での環境問題が深刻化。
人口爆発と相まって、食糧・水・エネルギーの確保が危機的状況に。
- ◆ＩＣＴの飛躍的な進歩をはじめ、科学技術は一大変革（イノベーション）を遂げ、社会システムや生活様式を一変。
- ◆アジアが世界経済を牽引し、グローバリゼーションの流れが一段と加速。
ヒト・モノ・カネが国境を自由に超える時代に。

2 徳島の将来像に対する主な意見

- 少子化対策として、「結婚～出産～子育て」というライフプランの教育が必要。
- 夫婦が理想の数の子どもを持つためには、若年層の雇用環境の改善や、家庭で子育てしながら働くことの出来る多様な選択肢の提供が不可欠。
- 人口減少や超高齢化を見据えたコンパクトかつ計画的なまちづくりが重要。
- 地域防災力の向上には、個人の常日頃からの備えはもちろん、地域での信頼関係を築き、お互いの生活情報を増やし、相互扶助の地域づくりにつなげていくべき。
- 大規模災害への備えとして、県民への正確な情報の提供と防災教育の充実、耐震化への支援、備蓄品の改良・增量など、多面的な取組が必要。
- 洋上風力発電や潮流発電など、地産地消の再生可能エネルギーの導入を推進するとともにＩＣＴを活用し、世界最先端のスマートシティを実現する。
- 様々な課題解決の有効な手段として、また、産業の活性化のため、ロボット開発やＩＣＴなどの科学技術の進展は不可欠。また、４Ｋや８Ｋの普及促進、高速ブロードバンド網のあらゆる場面での活用など、徳島ならではの技術を進化させるべき。
- 人口減少や科学技術、防災など、様々な面で四国新幹線の実現がもたらす多大な効果に期待する。
- 高校生や大学生が気軽に海外留学できる環境づくりと併せて、外国人と学生が身近に異文化交流できる機会を増やし、グローバル社会で活躍する人材を育成すべき。

3 将来ビジョン（2050年頃の姿）

□世界へ発信「笑顔のTOKUSHIMA」

- ・子どもたちの笑顔が地域にあふれている
- ・未来を創造するたくましい若者が社会へ巣立っている
- ・一人ひとりが自立しながら支え合い地域で繋がっている
- ・健康寿命が伸び多様なライフスタイルが実現されている
- ・地域・世代を超えて人の和が広がっている

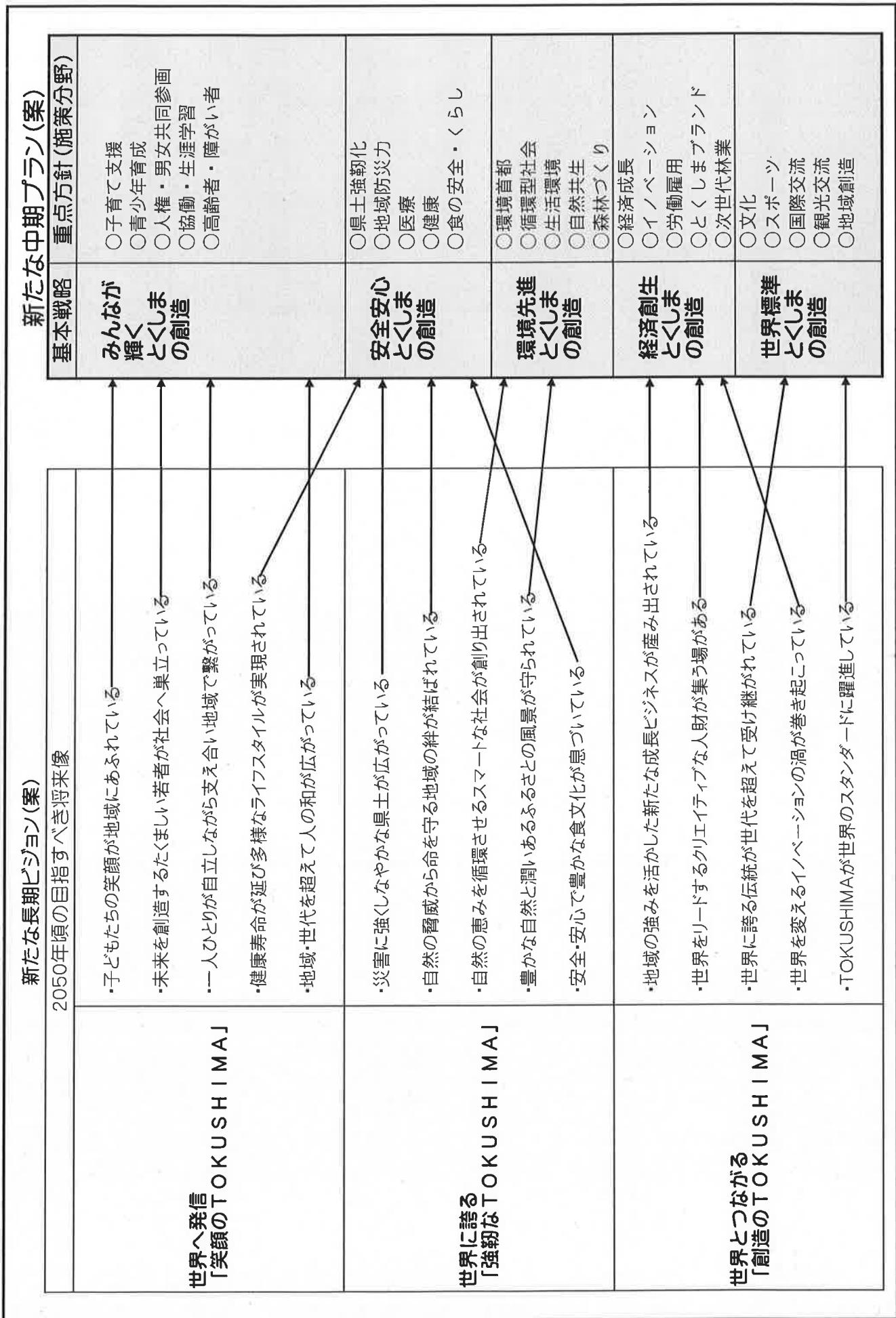
□世界に誇る「強靭なTOKUSHIMA」

- ・災害に強くしなやかな県土が広がっている
- ・自然の脅威から命を守る地域の絆が結ばれている
- ・自然の恵みを循環させるスマートな社会が創り出されている
- ・豊かな自然と潤いあるふるさとの風景が守られている
- ・安全・安心で豊かな食文化が息づいている

□世界とつながる「創造のTOKUSHIMA」

- ・地域の強みを活かした新たな成長ビジネスが産み出されている
- ・世界をリードするクリエイティブな人財が集う場がある
- ・世界に誇る伝統が世代を超えて受け継がれている
- ・世界を変えるイノベーションの渦が巻き起こっている
- ・TOKUSHIMAが世界のスタンダードに躍進している

新たな総合計画「中期プラン編」骨子案（10年程度先を見据えた基本政策の方向性）



県民等からの意見聴取結果

徳島県における2050年・2025年までの取組・将来像
にかかる意見数集計表

(単位：件)

意見聴取方法	意見数(※)	備考
パブリックコメント	202	募集期間 H26.5.1～6.30
フェイスブック	77	投稿期間 H26.5.1～7.23
学生アンケート	84	県内高校生28・県内大学生、高専生28・県外大学生28 (4000人余りの回答のうち、精選した自由筆記分を整理)
わくわくトーク	45	東部 17・南部 14・西部 14
若者クリエイト部会	100	研究発表会における発表及び意見交換内容を整理
徳島若者未来創造塾	18	発表及び意見交換内容を整理
宝の島・とくしま創造部会	5	政策にかかる意見のみを掲載
計	531	ただし学生アンケートは、(重複含め)全て集計すると6738 件の回答があり、これらも合算すると、改計 7185件

※意見数は、1人から複数の提案等があった場合、その内容ごとにカウントするものとした。

にぎわい・感動 とくしま	経済・成長 とくしま	安全安心・実感 とくしま	環境首都・先進 とくしま	みんなが主役・元気 とくしま	まなびの邦・育み とくしま	宝の島・創造 とくしま
(交通・都市空間) <ul style="list-style-type: none"> ・四国新幹線を実現させ、開西の中心地に1時間前後で行けるようになれば、徳島が関西のベッドタウンになることができ、移住する人が増え、人口減少が防げる。また、日本中の四国・徳島に対する価値観が変わる。 ・情報通信産業の振興や情報通信産業の企業立地の促進、「とくしまICT村」の構築により、「ITG高速プロードバンド立国・とくしま」を推進する。 ・紀淡海峽を結ぶ国土交通省として四国新幹線が位置づけられている「太平洋新国立陸橋構想」というのがあって、徳島県もメンバーになっている太平洋新国立陸橋構想推進協議会でも構想実現に向けた取組みを行っています。 ・「4Kスパークハイビジョンテレビ」や「8Kスパークハイビジョンテレビ」の普及促進により、徳島県が「映像コンテスト先進県」となる。 ・老朽化した公共施設の移転又は改修、街の中心地の再開発が進んでいる。 	(地域活性化・農林水産業) <ul style="list-style-type: none"> ・地産池消は新鮮でおいしく、安全・安心な食材を消費者に提供でき、輸送距離が短いので、環境にも優しい。今まで以上に地産食・外食・スーパー等で地産地酒を推進して欲しい。 ・規格外、採れすぎた農作物もちゃんと理解すれば需要はある。私のところではその収穫の仕組みが成り立っている。 ・湯門市から瀬戸町の周辺海域で養殖漁場を造る。近海においては瀬戸内国際大橋を駆けめぐら、岬、ハマチ、ぶり、うなぎ等の豪華について厳しい制約をかけているが我が国であるが故に、徳島県でも越前(八戸)を特産品とし上記豪華の養殖を前記の兩端に設置して頂ける漁業者から送る漁業者にて対応していく時代に改革してはどうか。 ・「食の循環源・とくしま・食の楽園・とくしま」を推進する。 ・第一次産業の6次化から4次元化へ→競争性、サービス向上とのマッチングを積極的に行うことにより、体験型により雇用のきっかけを増やすことができ、技術の継承も可能となることが見込める。 ・何も作ってない農地の減少 	(防災教育・交通安全) <ul style="list-style-type: none"> ・大規模災害への備えとして、耐震化工事への補助金の拡大、小さい建物からの防災意識の強化、より安価で耐震設備などの開発、県民全体の防災意識の強化や大規模災害が起こったときの助け合いの心の育成が必要。 ・学生、地域と企業が共同で考え方を話せる機会を作る。 ・交通ルールが守られて、死亡事故のない環境で暮らせるまちづくり ・徳島県はケーブル普及率がとても高いので、大規模災害への心配を促す放送を行うよ。 ・大規模災害への備えとして、県民が巨大地震について理解を深められるようにさまざまな機会を利用して正確な情報を伝える。 ・「全県民オリジナル自転車免許取得の第一回中小学生から高齢者まで徳島県オリジナルの自転車免許証交付」→交通安全対策、マナー違反対策として全国で初めて自転車免許を全県民に 	(環境・エネルギー) <ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー問題や環境問題の解決のため、自分だけではなく、全体の利益を追求する。子どもたちに正しい教育を。自分の意識をしっかりと持つ。 ・何が問題でどのように解決すべきかを県民とともに明確化し、方向付けする必要がある。 ・徳島県が自然再生可能エネルギーで「地産地消の自然再生可能エネルギー」を推進する。(IGTの情報通信技術を活用して太陽光発電、太陽熱発電、風力発電、小水力発電、バイオマス発電等)を元に管理する。 ・若年層の雇用環境に関して、非正規だと結婚していない人の割合が大きく、既婚者の割合が少ないので、既婚者の理想の子供の数は現実よりも理屈の数が多い。理由は「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」、「高齢で生むのはいやだから」、実際に子育て世帯の所得を見ると、過去に比べて低所得層にシフトし「年賃が低い世帯が子育てしているように見えてはいけない」という調査結果 ・子育てしながら家でも働けるように、企業が労働者にある程度の選択肢を与える。 	(子育て) <ul style="list-style-type: none"> ・少子化の背景として、生涯未婚率。平均初結婚年齢及び平均出産年齢もどんどん右肩上がりで、既婚化と既産化が進んでいる。 ・高校生を対象にした調査でのイメージができるが、その後の結婚、出産、子育ては全然想像できない。そのため結果を踏まえ、少子化対策として、小学校の頃から「結婚、出産、子育て、人生のライフプランを理解できる教育」を始めるべきではないか。 ・若年層の雇用環境に関して、非正規だと結婚していない人の割合が大きく、既婚者の割合が少ないので、既婚者の理想の子供の数は現実よりも理屈の数が多い。理由は「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」、「高齢で生むのはいやだから」、実際に子育て世帯の所得を見ると、過去に比べて低所得層にシフトし「年賃が低い世帯が子育てしているように見えてはいけない」という調査結果 ・子育てしながら家でも働けるように、企業が労働者にある程度の選択肢を与える。 	(郷土で学ぶ) <ul style="list-style-type: none"> ・瀬戸町における限界集落での高齢者との交流の中、本当に幸せな結果について考えることが多くなり、物質的、精神的なものだけが幸せではなく、当たり前の自然の中で暮らすことの楽しさを小さい頃から体験させ、教えていきたい。 ・学力テストでもひけをとらないよう基礎的学力を向上させ、国際社会にも通用する英語教育にも力を入れていく。 ・家庭や介護でのロボット技術定着のため、ハーバードによりソフト面に課題が見られるので、開発など必要な情報教育をより早い段階(小学校等)から始めるべき ・年長者に「おもづら」、祖父父や母から昔の話を(生きる知識、豊かな経験)を聴いたり、自分で山、川、海での豊かさを体験することで、身体にふるざとが染みつき、一生の楽しい思い出となり、また戻りたい、守りたい徳島になる。 ・また、障がい者を含め、徳島に住む、働く、訪れる、全ての人に対してやさしい、気遣いのできる人間形成を目指すべきと考える。 	(人口減少対策・魅力ある地域) <ul style="list-style-type: none"> ・駅前、そごう、新町の商店街、飲食店に入っているお客様があまりにも少なくて父親がピックリしていた。活気溢れる街にするには、若い人や年配の人の声を聞き、食べ物、観光などいろんな角度から考えていく必要があるのではないか。大阪や高松、東京など大都市の人の流れや店などを視察して勉強するのもいいと思う。働く場所が増えれば消費率が上がり活気が出ると思うので、働く場所の確保・創出を考えるべき ・私の経験から、各個人経営で忙しい商店街においても、人ととのつながり、情報の伝播が大事であり、行政、商工会議所からの情報提供により、一致団結した取組、街おこしに繋がるものである。 ・来県者(移住希望者)のハンドルを下げる、背中を押してくれる、「暮らしの、創れる、接続できる」徳島でありたい。 ・人口減少や超高齢化を見据え、都市機能をコンパクトに集約・分担するなど、計画的な街づくりが大切である。 ・都市部よりの移住の推進
(観光) <ul style="list-style-type: none"> ・徳島で20年仕事し、その後10年…から見ると、徳島といえどア波おどり。でも今や大阪とかなら日帰りコース。昼間に行ってもすることができなく、使島ラーメン食べたら終わり。結果、夕方行って踊り見て、ラーメン食べてそのまま帰るか、高知や香川に行く。つまり徳島に泊まつてもらう施設が必要となる。 ・国観光特区の制定…、徳島の特色を活かしつつ県の垣根を越えた観光戦略、「一大歩危」に行くには、徳島空港から時間がかかるが、高知空港からは1時間で行くことができ、4国4都それぞれの強みを活かし、補完し合える。「四大觀光特区」を充実させ、その中で徳島らしさを出すことが必要 ・「とくしま繩街道」(徳島ラーメン、鴨ちゅるうどん、土産、御所らうとうどん、阿波半田そうめん、詔谷そば)を全国に観光宣伝する。 	(雇用) <ul style="list-style-type: none"> ・「自分の好きな仕事を自分の好きな場所でできる」ってスゴイことですね!「職の都合でやむを得ない徳島を離れる人」も確實に減るのは、徳島の強み「全国屈指のプロードバンド環境」。空き家も再利用して自然豊かな快適な環境の中で仕事ができ、しかも自然時間が増えて人間らしい充実した生活が送れるというは、都会ではない、田舎ならではの新しいライフスタイルだと思います! ・「職業訓練に直接民間企業から講師を出す」一層用意する側から現場で必要な技術を教え、現場と訓練のギャップを減らすことにより、職業訓練を終わらすことで、また、職業訓練を終えて本格的に必要な力を実習したうえで、あるべき継続・復興計画の策定が必要 ・防災には個々の日常生活から備えも重要であるが、地道な所付合いから、地域内における信頼關係を築き、お互いの生活情報を増やす。相互扶助の地域づくりに努めなければならない。 ・完全地震予測システムの開発に投資し、官民一体となって被災を最小限に留める。また、被災品を収容・増量して少しでも避難生活を快適にする備えをする。 	(防災・減災・復興対策) <ul style="list-style-type: none"> ・2050年を見据えた時に2つのリスク、人口減少・過疎化による社会的リスク、2)今後30年内に70%の確率で起る南海トラフ大震災などの自然災害リスク、が考えられる。空き家も再利用して自然豊かな快適な環境の中で仕事ができ、しかも自然時間が増えて人間らしい充実した生活が送れるというは、都会ではない、田舎ならではの新しいライフスタイルだと思います! ・「職業訓練に直接民間企業から講師を出す」一層用意する側から現場で必要な技術を教え、現場と訓練のギャップを減らすことにより、職業訓練を終わらすことで、また、職業訓練を終えて本格的に必要な力を実習したうえで、あるべき継続・復興計画の策定が必要 ・防災には個々の日常生活から備えも重要であるが、地道な所付合いから、地域内における信頼關係を築き、お互いの生活情報を増やす。相互扶助の地域づくりに努めなければならない。 ・完全地震予測システムの開発に投資し、官民一体となって被災を最小限に留める。また、被災品を収容・増量して少しでも避難生活を快適にする備えをする。 	(快適な生活環境) <ul style="list-style-type: none"> ・2050年を見据えた時に2つのリスク、人口減少・過疎化による社会的リスク、2)今後30年内に70%の確率で起る南海トラフ大震災などの自然災害リスク、が考えられる。空き家も再利用して自然豊かな快適な環境の中で仕事ができ、しかも自然時間が増えて人間らしい充実した生活が送れるというは、都会ではない、田舎ならではの新しいライフスタイルだと思います! ・限りある資源を大切にといふ呼びかけが定着し、県民や観光客の自然への意識が非常に高まっている。 ・カバー写真が大川原高原になっていてびっくりしました。佐那河内村のPRありがとうございました。温泉が温かいので、温泉浴場の見どころは平地より遙れています。 ・晴れた日は、淡路島まで見えます。 	(高齢化) <ul style="list-style-type: none"> ・目指すべき地域像「超高齢社会に向けた高齢者の介護や認知症教育を小学校から実施」で、高齢者に心からやさしい街が実現し、認知症への理解や地域対策も進む ・2060年には平均寿命が男84歳、女91歳になるとの推計があるが、健常寿命の伸びと平均寿命の伸びを比較すると、平均寿命の伸びが車が高く、要介護者や医療の支援で延命する高齢者の増が予測される。それがだけ自分が死んでしまうことで、高齢者を減らす。さらに認知症を減らすことで、老人ホームや幼稚園や保育園を一体化した施設を作り、責任感を持たせ退職した後もやりがいのある生活を営めるようにする。 ・目指すべき高齢者像「高齢期の生活設計のための『すだち』(巣立ち・手帳・配布)」「すだち手帳の記入により高齢期の生活設計と専門職からのアドバイスが可能」 	(生涯学習) <ul style="list-style-type: none"> ・働いている人・高齢者の【将来あるべき姿】と【諒じるべき施策】 ・地域の大人が元市町村や徳島県をよく理解し、子どもたちに伝えられる】 ・「○○市(町・村)マイスター!先生!」「とくしまマイスター!先生!の育成」…「とくしま学博士」認定者で構成されるマイスター先生を育成し、子どもたちへの教育、マイスター候補の問題作等を行う。 ・「和まびたいに学びたいだけ学ぶことができる」ことを実現する。 ・「『徳島学び島根BOJ』の提供」…県民の学びへのニーズを把握するシステムを構築し、学びにに関するテキストや映像の作成、情報発信を行う。 ・ケンブリッジ県立校・ハイバーン徳島分校などができるなら国際化の時代に対応するのでは。留学しなくとも語学の勉強はできるし、貿易の負担も減ると思いますが 	(協働立県) <ul style="list-style-type: none"> ・「協働立県とくしまづくり」(→白鳥飛翔型の経済)」実現のためには、官民がうまく協働する必要。 ・地域活性化をかして新たな協働モデルとなるような先進的取組、地域活性化につながるものであれば、既存の行政分野に属さない独自の取組についても柔軟に協働できる仕組みづくり。 ・民に委託することにより官ではできないことができる。梓を超えて柔軟に対応できる。方向性の選択選択ができる。まちをデザインできる。求める方向性のマッチングができる。必要な取組として、積極的に行政から思いのNPO等に委託するなどして、うまく協働する。 ・NPOの主体性を信頼しませんので、官の力が必要な部分においては、NPO等に委託するなどして、NPOの主体性を信頼します。 ・NPO等に委託する中で、官の力が必要な部分においては、NPO等に委託する中で、官の力が必要な部分においては、NPO等に委託するなどして、NPOの主体性を信頼します。
(国際交流) <ul style="list-style-type: none"> ・高校生や大学生での海外留学は非常に良い経験となるので、短期のプログラム(夏休み、冬休みに気軽にに行くような)も、高校生のために学校全体で行っていくべき ・留学生や海外から来られる人にバスツアーや料理教室を通じて、気軽に地元徳島の産業体験や文化体験ができる取組を進め、その良さを母國に伝播してもらうことも大切 ・外国人のための日本語教材をもっと分かりやすくバージョンアップした方がよい。 ・「とくしま繩街道」(徳島ラーメン、鴨ちゅるうどん、土産、御所らうとうどん、阿波半田そうめん、詔谷そば)を全国に観光宣伝する。 	(次世代林业) <ul style="list-style-type: none"> ・南ぬトラフ三次活動地震への備えとして、先行高地移転や応急仮設住宅建設への準備が急務となっている。この状況を「木材備蓄」をスタートさせる好機と捉え、一年分で徳島で建設される木造住宅、木造建築に使う木材を製材した上で在庫として保管しておき、1年経過したものをさらに新たな施設を完備する。ついで、木材を供給する。まずは、木の供給が常に確保される状態にあることになる。 ・不在の山主が、林業從事者に山林の管理を委託しやすい仕組みができる。 ・加工技術が発達し、木工、建築、バイオマス燃料等、幅広く木の利用が進む。 	(食の安全・消費者教育) <ul style="list-style-type: none"> ・「くらしのサポーター」の若者化→「苦手からサボ」を設置し、ネット被害等もシェア→「苦手のネット被害」をスタートさせる好機と捉え、一年分で徳島で建設される木造住宅、木造建築に使う木材を製材した上で在庫として保管しておき、1年経過したものをさらに新たな施設を完備する。 ・「QRコード」添付のとりくみ一食の情報! T-化拡大計画・生産者情報確認→安全・安心な食の確保に向かっており、その駆除について効果的な対策を講じてもらいたい。 	(食の安全・共生) <ul style="list-style-type: none"> ・畜産用の飼料が、イノシシの食害に遭っており、抜本的にイノシシの頭数を減らすための効率的な狩猟のやり方や、たくさんの方に助け合いの意識がある。 ・吉野川河川敷で運動する際、妹が刺さりやすい外れ種の雜草(メリケンテンキソウ)が繁殖しており、その駆除について効果的な対策を講じてもらいたい。 ・食品アレルギー対応の飲食店後素系サイトが日本語版・外国語版が整備され、スマートに飲食店を探すことができる。 	(隣がいき) <ul style="list-style-type: none"> ・隣がいきの社会参加、就労が当たり前にになっているために、お互いができないこと、苦手なことを助けられるよう、自然に意識できるようになればいい。 ・徳島の未来としては、隣がいき自身が地域を支えていく役割を担って社会貢献ができる新たな仕組みを作りたいの、ご支援をお願いします。 ・隣がいきの社会参加を当たり前にとした企業などを作っています。 ・1)ハナミズキ西部サテライトにおける、より身近な相談支援体制の充実 2)生活困窮者支援制度スタートにかかる相談窓口、ネットワークの充実 3)隣がいきの就労意欲向上、自立のため工賃アップなど、更なる生活弱者の支援充実が必要 	(特別支援教育) <ul style="list-style-type: none"> ・隣がいきの社会参加、就労が当たり前にになっているために、お互いができないこと、苦手なことを助けられるよう、自然に意識できるようになればいい。 ・徳島の未来としては、隣がいき自身が地域を支えていく役割を担って社会貢献ができる新たな仕組みを作りたいの、ご支援をお願いします。 ・隣がいきの社会参加を当たり前にとした企業などを作っています。 ・1)ハナミズキ西部サテライトにおける、より身近な相談支援体制の充実 2)生活困窮者支援制度スタートにかかる相談窓口、ネットワークの充実 3)隣がいきの就労意欲向上、自立のため工賃アップなど、更なる生活弱者の支援充実が必要 	(イベント) <ul style="list-style-type: none"> ・地域、大学、行政の連携が感じられない。例えば、若者から知識豊富な社会人まで集めた、何かのプロジェクトを1つ試行段階でやるか、せっかくのアーケード街を壊わせて欲しい。 ・「スイースト甲子園」はあるようなのですが、「ペジタル・スタイル甲子園」ももちろん県選出でありて改めて地元の野菜を見つめ直すきっかけになるかも。 ・宿泊者数増の要因として、「マチ★アソビ」「とくしまマラソン」の影響が大きいのです。 ・10年にわたりオボリ以上に有名になるイベントをつくる宿泊者数増が見込める「徳島レッドアースフェスティバル」拡大版の実施 ・徳島に行けばオタクグッズが何でも揃う。
(文化) <ul style="list-style-type: none"> ・若い時に伝統文化に触れた記憶が、徳島のこと思い出す時、なぜか記憶と結び付いて、その人の中でも残り、懐かしく思えることにも繋がって欲しい。 ・「四国童話88箇所と湯道」と「紀伊山地の山場と参道道」、「四国歴史文化道」と関西の「歴史街道」との広域的な歴史文化連携の推進など、徳島県が新たに「歴史と文化の歴史街道づくり」を推進する。 	(科学技術・新産業発展) <ul style="list-style-type: none"> ・これから社会のいろいろな課題解消のためには、ドラえもんのようなロボットやICTなど科学技術力が不可欠のよう気がする。 ・高専11校、社会実装コンテスト航路→ロボット技術で課題解決→生活面で実際に走るロボットは開発されつつあるが、環境整備がまだある。車輪のついたロボットは街中では駆けさせず、2025年にロボットと人間が共存できる環境作り(安全面、環境も含め)が必要である。環境を落とすことで活躍の場も広がると思う。 	(医療の充実) <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな病気や怪我の治療が可能な高い技術を持つ病院を作るため、医療に興味を持つ子どもを育て、高齢社会に伴う医療技術の重大さや倫理なども意識させていく。 ・県内どこに住んでいても、24時間診察してもらえるようになっている。 ・「医療スタッフの地域派遣制度」→官民協働で看護師・リハビリスタッフ等の不足解消へ。 	(パリアフリー) <ul style="list-style-type: none"> ・パリアフリーやユニバーサルデザインを充実させ、人々の考え方や意識を変えていくこと 	(青少年健全育成) <ul style="list-style-type: none"> ・「将来あるべき姿」と「諒じるべき施策」 ・「幼小中高の児童・生徒」に加え、以下のことを実現「個性を光らせ、自ら発信できるようにする」。 ・「徳島の若者、この人!この取組!」知ってね!キヤンペーン!」の実施」…特別支援学校の児童・生徒に贈られる「自らが生主・主取組であることを認識し、それを活かすことができる」といふ教育(交換)を実施。協働の取組も実施する。それを前提に、若者たちが交流できる場を創出し、それを見聞きを聴き、それを発信できるシステムを構築。高等教育機関でも同様 	(行政改革) <ul style="list-style-type: none"> ・県の農林水産業審議会の委員をしているが、クリエイト部会でみたいな若手部門がなく、何十年もされている方の意見で前年度と同じような議論がずっと出ているのかなといつも思うので、こういう意見の農林水産業審議会が何ばかりか一気に変わることができるのではないか。 ・県農産品のPRにおいては、現在、部門間の連携が見られず、効果的な情報発信ができる仕組みが必要 	
(スポーツ) <ul style="list-style-type: none"> ・県南の豊かな自然と充実した環境整備をP.Rして、スポーツツーリズムに最適の地である旨、県内外に開拓して発信し誘致を増やしたい。 ・メジャーリーグなどスポーツはどここの県で行われているので、少しマイナーなオリンピック競技になってしまっている現段階開催に向けた整備がでなければ良い。 	(とくしまブランド) <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの市町村の特産品が全國で名産品となる。(神山町の駄恵梅アイス、吉野町市川島町焼肉のたれ等) ・主要都市にとくしま100%ショッピングやレストランができる、行列ができる。 	(健康) <ul style="list-style-type: none"> ・公共の交通機関の発達により、よく歩くことによって糖尿病患者など生活習慣病が激減している。 ・県民の野菜収量を増やす、生活習慣病を予防し、健康寿命を延伸する。 ・病氣死亡率、自殺率の低下。OOLの劇的向上 ・地域に根ざす伝統的な産業を世界に発信し、産業の活性化につなげていく。 	(共助共生) <ul style="list-style-type: none"> ・全ての世代が繋がった地域社会が幸せいな徳島づくりに繋がる。 ・もっと、介護という仕事に目を向け、全員が少しでも介護の知識を持つと家族でも、自分運の力で高齢者を支えられるのではないか。 	(開かれた教育) <ul style="list-style-type: none"> ・海の里山」や「山の里山」の地域資源で地域の自立を促進する(関西地域の小・中学校の「陸海学校」や「林間学校」の勝敗、高校や大学の「スポーツ合宿」の勝敗、首都圏のIGT企業の「IGT合宿」の勝敗に力を入れる)。 	(誰もが幸せい・男女共同参画) <ul style="list-style-type: none"> ・人生を通して誰もが共通して直面する生活課題をワントップで適切な情報を入手できるネットワークの構築。 ・女性海外派遣事業として、海外の政府関係機関・公共施設等を訪れて活動経験を通して多く学び、女性が輝く日本を実現していきたい。 	